弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため，患者さんの情報を利用させていただいておりますので，お知らせいたします。

研究課題名：　化学療法を行った切除不能進行膵癌の予後因子の検討

研究の目的

切除不能膵癌に対する化学療法は症状緩和、延命効果があることが示されています。本邦で膵癌に有効性が確立されている化学療法は Gemcitabine（GEM）または S-1 の単独療法、GEM/エルロチニブ併用療法、FOLFIRINOX 療法、GEM＋nabPTX 併用療法、ナノリポソーム型イリノテカン＋5-FU 療法の多剤併用療法があります。膵癌診療ガイドライン 2022 年版により、全身状態良好、主要臓器機能が保たれている膵癌患者においては、多剤併用療法が推奨されます。多剤併用療法による血液毒性、消化器毒性などの有害事象が強く現れる可能性があり、高齢者、PS 不良な膵癌患者においては GEM または S-1 単独が標準治療とされています。しかし、実臨床では健康な高齢者、全身状態不良な若年者など患者の背景より治療方針の判断が難渋することが少なくありません。今後、患者因子、腫瘍のバイオマーカーなど客観的な情報に基づいて、益と害のバランスのとれた化学療法を行うことで膵癌の予後を改善することが期待されます。

研究実施期間：　実施許可日～2026 年 3 月 31 日

対象となる方：　2013 年 3 月から 2021 年 12 月まで、弘前大学医学部附属病院腫瘍内科において切除不能進行膵癌に対して延命と症状緩和目的の化学療法を行った症例です。

利用させていただきたい情報について

2013 年 3 月から 2021 年 12 月までに切除不能進行膵癌に対して化学療法を施行した症例を対象とします。電子カルテから性別、診断時年齢、身長、体重、合併症、PS（Performance status）、原発部位、原発大きさ、遠隔転移、転移部位、手術歴などの患者情報と、血液データ（好中球数、血小板数、リンパ球数、アルブミン、CRP、T-chol、TG、腫瘍マーカーCEA、CA19-9 など） と CT 検査の画像データ（筋肉、脂肪など体組成データ、腫瘍に関する画像情報）を集め、切除不能進行膵癌の予後予測因子を調べます。経過観察期間 2022 年 12 月 31 日までです。

本研究課題について，より詳細な内容をお知りになりたい場合や，情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は，以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合，当該患者さんの情報については対象から除外します。ただし，連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は，該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので，ご了承願います。

本件連絡先	弘前大学医学部附属病院　腫瘍内科　助手　陳　豫 e-mail: chenyu@hirosaki-u.ac.jp TEL: 0172-39-5346 FAX: 0172-39-5347